

災害で1人の犠牲者も出さない 安全・安心のまちづくりを目指して

▶平成7年1月17日阪神・淡路大震災発生後の兵庫県神戸市長田区(写真提供:神戸市)



荒川区は、木造住宅が密集する地域(木密地域)が約6割を占めています。

大震災が発生した場合、建物の倒壊や大規模火災が発生するおそれがあり、多くの住民の生命と安全が脅かされるばかりか、緊急活動や物流等に大きな影響を与えかねません。

首都直下地震の切迫性や東日本大震災の発生を踏まえ、区は、「災害で1人の犠牲者も出さない」という信念のもと、災害に備えた取り組みをより踏み込んで行っています。

今号では、燃えない・燃え広がらないまちづくりのための、区の取り組みや、各種支援制度をお知らせします。

問合せ

防災街づくり推進課
☎内線2821

永久水利施設の整備

区は、災害により上水道が断水した際に、河川水・地下水を消火用水として活用する「永久水利施設」を、区内3か所に整備しました。

あらかわ遊園と都立尾久の原公園の施設は隅田川の河川水を、荒川公園(区役所前)の施設は深井戸による地下水を活用した施設で、有事の際に消火用水として利用するため、防災区民組織と消防団等が連携して、枯渇するおそれがある防火水槽に送水します。

※平成27年度中に、日暮里公園と南千住6丁目のスーパー堤防に整備します



▲永久水利施設を活用した消火訓練

▶災害で一人の犠牲者も出さないまちづくり

迫り来る首都直下地震から、区民の皆さまの尊厳と大切な財産を守っていただくことが私に課せられた最大の使命であり、今後も災害で一人の犠牲者も出さないまちの実現に、全力で取り組みます。区民の皆さまにも、いざという時のために今やれること、すべきことを一緒に考えていただき、防災・減災に向けたさまざまな取り組みにご協力をお願いいたします。

区では現在、東京都の木密地域不燃化10年プロジェクトにおいて不燃化特区の指定を受け、平成32年度までに重点的かつ集中的な改善に取り組んでいます。公園や広場の整備、道路幅員のほか、老朽木造住宅の除却や不燃化建て替えへの助成等により、まちの不燃化を強力に推進しています。また、不燃化特区における新たな取り組みとして、危険な老朽空き家の解体費全額助成等を行う「危険老朽空き家ゼロ作戦」を実施するほか、枯渇しない消火用水を確保する永久水利施設のさらなる整備を行います。

荒川区は、区内の約6割が木造住宅の密集する地域であり、一たび災害が起これば火災による大きな被害が想定されます。本年9月に策定した「荒川区防災・減災等に資する国土強靱化地域計画」においても、木造住宅密集地域の改善に向けた災害に強いまちづくりの推進に取り組むべき最優先課題としています。



荒川区長・特別区長会会長
にしかわ たいいちろう
西川 太一郎



マイナンバーの通知カードが
発送されます

個人番号をお知らせする「通知カード」を11月上旬から順次、簡易書留でお届けする予定です。不在の場合は、郵便局で1週間留め置きされますので、留め置き期間内に、受け取ってください。

問合せ

荒川区マイナンバーコールセンター
☎0570(00)1164

※午前8時30分～午後8時(年末年始等を除く)